HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	彙報・活動・編集後記・規定
著者	
引用	年報新人文学(7)
発行日	2010-12-25

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

［彙報］

平成二十一年度 大学院文学研究科

❖学位論文題目一覧

修士学位論文

●日本文化専攻修士課程

氏名	修士論文題目
江越　春	近代における「素人芝居」の存在形態 ―篠路村にみる伝統と変容―
須藤むつ子	専門学校における日本語教育のあり方 ―シラバス構築に向けて―
熊本　藤香	韓国人学習者の「日本語の受身文の習得」に関する研究

●英米文化専攻修士課程

氏名	修士論文題目
水口美知子	グローバル化と女性・児童労働 ―インド、スリランカを中心に―
阿部　久美	エリアーデ宗教学における宗教の可能性
奥山絵里香	北海道インターナショナルスクールの教育と文化 ―教育人類学的分析を通して―
貝澤　太一	近現代アイヌ民族における、生活文化の中での伝承に対する伝承者の意識の変遷 ～特に植物利用に関する伝承について、時代や生活環境が伝承者の意識に与えたもの～

❖授業科目及び担当者

●日本文化専攻博士（後期）課程

授業科目	担当教員
古代文学特殊研究Ⅰ	小野寺静子 教授
古代文学特殊研究Ⅱ	小野寺静子 教授
古代文学特殊研究Ⅲ	小野寺静子 教授
比較文学特殊研究Ⅰ	テレングト・アイトル 教授
比較文学特殊研究Ⅱ	テレングト・アイトル 教授
比較文学特殊研究Ⅲ	テレングト・アイトル 教授
日本古代中世史特殊研究Ⅰ	追塩千尋 教授
日本古代中世史特殊研究Ⅱ	追塩千尋 教授
日本古代中世史特殊研究Ⅲ	追塩千尋 教授
仏教文化史論特殊研究Ⅰ（禅文化史論）	船岡 誠 教授
仏教文化史論特殊研究Ⅱ（禅文化史論）	船岡 誠 教授
仏教文化史論特殊研究Ⅲ（禅文化史論）	船岡 誠 教授
近現代史特殊研究Ⅰ	郡司 淳 教授
近現代史特殊研究Ⅱ	郡司 淳 教授
近現代史特殊研究Ⅲ	郡司 淳 教授

●英米文化専攻博士（後期）課程

授業科目	担当教員
英米歴史文化特殊研究Ⅰ	常見信代 教授
英米歴史文化特殊研究Ⅱ	常見信代 教授
英米歴史文化特殊研究Ⅲ	常見信代 教授
英米社会文化特殊研究Ⅰ	岩崎まさみ 教授
英米社会文化特殊研究Ⅱ	岩崎まさみ 教授
英米社会文化特殊研究Ⅲ	岩崎まさみ 教授
欧米社会文化特殊研究Ⅰ	濱 忠雄 教授
欧米社会文化特殊研究Ⅱ	濱 忠雄 教授
欧米社会文化特殊研究Ⅲ	濱 忠雄 教授
英米思想文化特殊研究Ⅰ	上杉 忍 教授
英米思想文化特殊研究Ⅱ	上杉 忍 教授
英米思想文化特殊研究Ⅲ	上杉 忍 教授
欧米思想文化特殊研究Ⅰ	安酸敏眞 教授
欧米思想文化特殊研究Ⅱ	安酸敏眞 教授
欧米思想文化特殊研究Ⅲ	安酸敏眞 教授

●日本文化専攻修士課程

授業科目	担当教員
日本文学特殊講義Ⅰ	小野寺靜子 教授
日本文学特殊講義演習ⅠA	小野寺靜子 教授
日本文学特殊講義演習ⅠB	小野寺靜子 教授
日本文学特殊講義Ⅱ	田中　綾 准教授
日本文学特殊講義Ⅳ	中村三春 講師
比較文学特殊講義Ⅰ	テレングト・アイトル 教授
比較文学特殊講義演習ⅠA	テレングト・アイトル 教授
比較文学特殊講義演習ⅠB	テレングト・アイトル 教授
比較文学特殊講義Ⅱ	大谷通順 教授
表象文化論特殊講義	大石和久 教授
日本言語文化特殊講義Ⅰ	中川かず子 教授
日本言語文化特殊講義演習ⅠA	中川かず子 教授
日本言語文化特殊講義演習ⅠB	中川かず子 教授
日本言語文化特殊講義Ⅱ	菅　泰雄 教授
日本言語文化特殊講義Ⅲ	徳永良次 教授
日本歴史文化特殊講義Ⅰ	追塩千尋 教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅠA	追塩千尋 教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅠB	追塩千尋 教授
日本歴史文化特殊講義Ⅱ	船岡　誠 教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅡA	船岡　誠 教授

授業科目	担当教員
日本歴史文化特殊講義演習ⅡB	船岡　誠 教授
日本歴史文化特殊講義Ⅲ	郡司　淳 教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅢA	郡司　淳 教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅢB	郡司　淳 教授
日本宗教思想史特殊講義Ⅰ	福島栄寿 講師
日本宗教思想史特殊講義Ⅱ	早島有毅 講師
北方文化論特殊講義Ⅰ	中村英重 講師
北方文化論特殊講義Ⅱ	桑原真人 講師
アイヌ文化論特殊講義	手塚　薫 准教授
アジア文化論特殊講義Ⅰ	須田一弘 教授
アジア文化論特殊講義Ⅱ	李　俊鎬 講師

●英米文化専攻修士課程

授業科目	担当教員
英米社会文化特殊講義Ⅰ	岩崎まさみ 教授
英米社会文化特殊講義ⅠA演習	岩崎まさみ 教授
英米社会文化特殊講義ⅠB演習	岩崎まさみ 教授
英米社会文化特殊講義Ⅱ	姉崎洋一 講師
英米歴史文化特殊講義Ⅰ	常見信代 教授
英米歴史文化特殊講義ⅠA演習	常見信代 教授
英米歴史文化特殊講義ⅠB演習	常見信代 教授
英米歴史文化特殊講義Ⅱ	上杉 忍 教授
英米歴史文化特殊講義ⅡA演習	上杉 忍 教授
英米歴史文化特殊講義ⅡB演習	上杉 忍 教授
欧米歴史文化特殊講義Ⅰ	濱 忠雄 教授
欧米歴史文化特殊講義ⅠA演習	濱 忠雄 教授
欧米歴史文化特殊講義ⅠB演習	濱 忠雄 教授
欧米歴史文化特殊講義Ⅱ	太田敬子 講師
英米思想文化特殊講義Ⅱ	川上武志 教授
英米思想文化特殊講義ⅡA演習	川上武志 教授
英米思想文化特殊講義ⅡB演習	川上武志 教授
英米思想文化特殊講義Ⅲ	瀬名波栄潤 講師
英米言語文化特殊講義Ⅱ	米坂スザンヌ 教授
英米言語文化特殊講義ⅡA演習	米坂スザンヌ 教授

授業科目	担当教員
英米言語文化特殊講義ⅡB演習	米坂スザンヌ 教授
欧米思想文化特殊講義Ⅰ	安酸敏眞 教授
欧米思想文化特殊講義ⅠA演習	安酸敏眞 教授
欧米思想文化特殊講義ⅠB演習	安酸敏眞 教授
欧米思想文化特殊講義Ⅱ	桑原俊一 教授
欧米思想文化特殊講義ⅡA演習	桑原俊一 教授
欧米思想文化特殊講義ⅡB演習	桑原俊一 教授

文学研究科教育・研究発表活動

◎二〇一〇年度第一回「全体ゼミ」（博士課程・中間報告）―六月十九日（土）（13：30～15：40）が本学C31番教室にて開催された。博士課程に在学する3名の大学院生が、次のような題目で、博士論文の構想やその一部を発表した（参加者約40人）。

張　健華「『満洲国』朝鮮人の歴史的位相―『国語』教育を中心に―」

栗本瑞恵「昭和期農村婦人の生活実態―『北海道社会事業』を中心として―」

町田一也「摂政藤原良房の誕生とその背景―太政大臣・左右大臣との関係を中心に―」

◎二〇一〇年度第二回「全体ゼミ」（修士課程二年・中間報告）―七月十日（土）（13：30～16：15）が本学D41番教室にて開催された。修士課程二年に在学する5名の大学院生が、次のような題目で、修士論文の構想とその一部を発表した（参加者約40人）。

橋本芳恵「『否と言へど』の二首について」

塩濱健児「エルンスト・トレルチの〈文化史〉研究とその方法」

舟田尚子「19世紀イギリス社会における友愛協会の役割」

安田優子「韓国語における日本製外来語について―特に野球用語を中心として―」

韓　紅艶「蒙疆政権下におけるモンゴル人に対する日本語教育について」

◎二〇一〇年度第三回「全体ゼミ」（修士課程一年・中間報告）―十一月六日（土）（13：30～16：15）が本学C32番教室にて開催された。修士課程一年に在学する5名の大学院生が、次のような題目で、修士論文の構想を発表した（参加者約40人）。

町田広和「手塚治虫漫画におけるロボットの人間服従性―『鉄腕アトム』を中心に―」

宋　林「中国人、日本人の面子とコミュニケーションスタイル及び価値観、意識の文化差について」

陳　依汎「コミュニケーションとしての敬語使用について―日本人と中国語母語話者の使用実態から―」

頼　怡瑄「台湾における日本文化の受容―皇民化運動を中心に―」

水谷圭子「『誤解』の効果的な教育法の一考察―協働学習による日本語学習者の自律性との関連で―」

編集後記

◉『年報　新人文学』第7号をお届けします。前号の反省から、原稿の募集を積極的に行ったためか、大部のものとなりました。喜ばしい限りですが、こうなると次号のことが心配になるのは、編集を担当する者の性でしょうか。

◉今号は、論文六篇と書評一篇を掲載しています。このうち小林慧子・白岩千枝両氏の論文は、いずれも修士論文の成果をまとめたもので、近代日本と中世イギリスといったように時代と社会こそ異なれ、病をめぐる人間の生と死を見つめた作品であるという点でも共通しています。修士課程修了後も、それぞれの場で、倦まず弛まず研究に励んでこられた両氏に対し、敬意を表したいと思います。今後も、このような成果が、『年報　新人文学』に投稿されることを祈念しております。

◉今号より、和文・縦書きを原則としつつ、和文以外の言語あるいは和文でも横書きの投稿を認めることにしました。本研究科が日本語を母語としない研究者を排除していない以上、それが本来的な姿であると判断したからです。また、例えば英文学や英語学などでは、当然引用文や典拠も英文表記となるわけで、さまざまな研究領域を専門とする研究者によって構成されている本研究科では、紀要も、本来多様であるべき研究論文に対し、開かれたものでなくてはならないと考えた次第です。従来の体裁を改めるに、全く躊躇がなかったわけではありませんが、右の事情をお察し頂き、ご理解を賜りたく存じます。

◉２０１０年度から、創刊号以来、『年報　新人文学』を文字通り牽引してこられた安酸敏眞氏が編集委員を退き、新たに岩崎が編集を担当することになりました。『年報　新人文学』は、この安酸氏とすでに編集委員を退任されているテレングト・アイトル氏が、研究科の設置理念である「新しい人文学」を創成し、世界に発信する場として、熟慮を重ねて創り上げたものです。氏の退任にあたり、この事実を想起することで、改めて研究科の初心を確認したいと思います。

（岩崎まさみ・郡司　淳）

『年報 新人文学』投稿規定

一、『年報 新人文学』は、人文学に関する広範な分野の研究成果を掲載し、内外の研究交流を図ることを目的とし、年一回発行を原則とする。

二、投稿原稿の著者は、当人文学部及び文学研究科の所属者でなければならない。ただし編集委員会が認めた場合はその限りではない。

三、原稿は、原則、日本語とし、縦書き、種類と分量はそれぞれ次のとおりとする。

①原著論文で未発表のもの、四〇〇字詰原稿用紙五〇頁程度。

②研究ノート・資料・報告など、四〇〇字詰原稿用紙三〇頁程度。

③書評など、四〇〇字詰原稿用紙一〇頁程度。

④その他、編集委員会が必要と認めたもの。

四、原稿は編集委員会で厳正な審査を行い、採否を決定する。編集委員会は査読結果に基づき、原稿の一部変更を求めることがある。

北海学園大学大学院文学研究科
『年報新人文学』編集委員会